

得意分野で選ぶ いい病院 いいドクター

全道
版

vol. 2

ここまで進んだ、
北海道の
がん治療

困る前に知っておく、この病気ならこのドクター

得意分野 がん種別

超選択的抗がん剤
動注化学療法と放射線
照射の同時併用療法

旭川医科大学病院

耳鼻咽喉科・
頭頸部外科教授

原 潤 保 明 氏



1982年旭川医科大学医学部卒業。
88年札幌医科大学耳鼻咽喉科助手。
91～93年米国ニューヨーク州立バ
ッファロー校留学。93年札幌医大
講師を経て、98年旭川医大耳鼻
咽喉科・頭頸部外科教授就任。耳鼻
咽喉科専門医

● 頭頸部がん ●

抗がん剤同時併用放射線療法を道北・道東で唯一実践
重要機能の温存に積極的に取り組む

がん全体に占める頭頸部がんの割合は約5%といわれており、あまり頻度が高いものではない。しかし、頭頸部には呼吸、発声、嚥下（ものを飲み込むこと）といった、人間らしい生活を営むために重要な機能に関係する器官が集まっている。

従って頭頸部がんを治療する場合には、がんを完全に治すことも重要だが、治療による機能の損失を可能な限り小さくすることも重要な課題となる。

「この難しい課題に対して、手術治療、放射線治療、化学療法（抗がん剤）を効果的に組み合わせることによって、機能を温存しながら治療効果を高めることを考え、実践しています」と語る原潤保明教授。「研究と臨床は互いにフィードバックするものでなければならぬ」とモットーに、新しい治療法を多く生み出し、研究の結果を着実に臨床に生かしている。

同科での頭頸部腫瘍に対する手術件数は、年間200例を超えている。手術によって口腔、咽頭（のど）、喉頭（声帯）などの切除が必要な場合には、術後の機能障害を軽減するために、微小血管吻合による遊離移植を用いた再建術を積極的に行っている。

また近年、がん患者の発声機能や嚥下機能を温存する治療として、超選択的抗がん剤動注化学療法と放射線照射の同時併用療法が注目されている。この治療法は、がんがある場所を栄養としている血管に高い濃度の抗がん剤を注入することによって、効果的にがん細胞を消滅させると同時に、全身的な抗がん剤の副作用を軽減することができる。

同科は放射線科と共同で、この治療法を実践している道北・道東で唯一の施設であり、症例数はこれまでに100例にも達している。特に従来の治療法では大きな手術が必要であった進行がんに対しても、咽頭、喉頭、舌の温存が可能となった症例も少なくない。

また、同科教室では、頭頸部がんに関する分子腫瘍学的、腫瘍免疫学的、ウイルス学的な多面的解析を行い、分子標的治療、遺伝子治療などの臨床応用を目指した基礎的な研究にも積極的に取り組んでいる。「聴く、食べるなど、人が最後まで持つておきたい機能をいかに残し、生かしていくかを考えた診断、治療を目指し、新しい治療法の開発も含めて今後とも取り組んでいきたい」と原潤保明教授。

Data

旭川医科大学病院

旭川市緑が丘東2条1丁目1-1

電話 (0166) 65-2111

http://www.asahikawa-med.ac.jp/hospital/

- 院 長 / 石川 敬典
- 診療科目 / 第1内科、第2内科、第3内科、精神科神経科、小児科、第1外科、第2外科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、産科婦人科、放射線科、麻酔科、生体科、脳神経科、歯科口腔外科
- 診療時間 / 【平日】8:30～12:00（夜）、正午以降の救急患者受け入れは総合診療科で対応。17時以降は救急科で対応。
- 休 診 / 土曜、日曜、祝日
- 専門科等 / アルzheimer型、認知症専門診療科併設外来、e21外来ほか
- 医療機器 / 耳鼻咽喉科、頭頸部外科全般的機械など
- 症 例 数 / 年間約100例